

声 襲撃空巻花



久保田 喜美子 さん

●くぼたきみこさん。昭和4年生まれ。86歳。花巻高等女学校に通っていたとき、花巻空襲を体験する。

※掲載している四つのイラストは、久保田さん自身が描いたものです

70年前の8月10日、久保田喜美子さんは花巻空襲を体験しました。戦争はいかにみじめで悲惨なことか。戦争を体験した世代として、語り継いでいきたいと話します。

私の青春は、まさに暗黒の時代でした。

昭和16年12月8日、大東亜戦争が勃発し、その2年後の昭和18年4月に、花巻高等女学校(現在のまなび学園の場所)に入学しました。授業はほとんどなく、生徒全員で縄なえをしたり、竹やりを持って、米兵に見立てた人形を突く練習をしたりしていました。なんと幼稚なことをしていたのか、今思うと情けなくります。

作る縫製工場となり、教室には、みんなの家から集められた古いミシンが並んでいました。作業はとても大変でした。寒い所で着る軍服なのか、毛布のように分厚い生地のため、ミシンの針はすぐ折れてしまいました。金属の針が不足すると、今度は竹で作った針を使いましたが、それもすぐボロボロになり大変苦労をしました。

そんな毎日をご過ごしていた8月10日、急に警戒警報が鳴り、慌て外に出ました。いつものように警報だけかなと思いつつ校庭に掘っただけの穴にしゃがんだ途端、花巻病院のほうから「ゴーゴー」という爆音が聞こえてきました。見上げると、5・6機の戦闘機が屋根

ストレスを飛んでいるのが見えませんでした。

いつもの日の丸はなく、初めて見る青い星のマークです。みんなびつくりして「キヤーこわいよー」「お母さん助けてー」と泣き叫びました。すごく恐く、生きた心地がしませんでしたが、幸い戦闘機は頭の上を通り過ぎていきました。

ほっとしてわれに返り、急にわが家のことが心配になりました。体の不自由な父と、母、姉と生まれたばかりの赤ん坊、幼い妹弟。その時、姉の夫は召集されていたので、女ばかりの家族でした。家のことが心配になり、私は無



女生徒たちは、校庭に掘られた穴に身を隠した



家の窓から飛行士と目が合うほど、戦闘機は低空を飛んでいた

雑魚寝をしました。明日も無事でいられるかどうかは分からない。そう思いながらも、安堵したことを覚えていません。

数日して、女学校に様子を見に行ったとき、ラジオで重大放送が始まると聞きました。職員室の前で、みんなでそのラジオを聞き、終戦を知ることができたのです。

私たちは日本が負けた悔しさ、戦争が終わった安心感に、泣いてしまいました。



空襲後、蚊帳をつった松林の中で避難生活をした

終戦から1年ぐらい経ったころ、姉の夫が南方で戦死したとの知らせが届きました。姉の子は父親に1度も会うこともなく、本当にかわいそうでした。

終戦後も食糧難のため、毎日食事することがやっとで、どれだけみんなが苦しんだことか。何もないつらい生活が続きました。子どもや孫たちには絶対こんな思いはさせたくありません。

有名な詩人が言っています。戦争ほど、残酷なものはない。戦争ほど、悲惨なものはない。二度と戦争のない世界となることを願ってやみません。

戦後70年 あの惨状 忘れない

きつとここが狙われる。そう思った私たちは、すぐに避難を始めました。リヤカーに布団やコメなどを積み、その上に歩けない父や子どもたちを乗せ、山坂を上り、星が丘にある松林を目指したのです。山坂まで来たその時、南の空が真っ赤に染まっているのが見えませんでした。上町がどンドン燃えていたのです。

火は私が見ている高台まで明々と照らすほど燃え盛っているのに、サイレン音一つ聞こえない。上町の同級生は無事だろうか。異様な光景を眺めながら、とても不安な気持ちでリヤカーを押し続けて歩きました。



リヤカーを引いて避難。空は真っ赤に燃えていた

戦争のない平和な世界を願って

終戦から70年経った今、戦争を知る人は少なくなっています。私たちは、戦争から学んだ教訓を次の世代に伝えていくことができるでしょうか。私たちの子どもや孫がああ惨状に巻き込まれることがないように、戦争の記憶を風化させてはなりません。平和な世界を願って。

我夢中で学校の裏の崖を草木にかまりながら転がるように滑り降り、鍵町(現在の坂本町)へ出て川端の道を通り抜け、やっとなが家がたどり着きました。そのころ、花巻駅に爆弾が落とされたのか? 家はその爆風でガラス戸が割れ、南側の玄関の重くて頑丈な二枚戸は外に倒れていました。爆風の強さに驚きました。間もなくして、再び大きな爆音が聞こえてきたので、北側の部屋の窓から外を眺めると、ちょうど戦闘機が急降下してこちらに向かつて来るのが見えました。恐い。もう命がないかもしれない。その瞬間、私の目と飛行士の目が合ったのです。大きな飛行メガネを掛け、ニヤニヤとガムをかんでいるその顔は今でも忘れることはできません。

その戦闘機は、リンゴ畑に隠れていた父親たちを目標けて、機銃掃射してきました。間もなく、父たちは無事に戻りましたが、後でリンゴの中に銃弾がいくつも入っているのを見てぞっとしました。

家のすぐ北側、今の桜台小学校が建つ場所に、軍事工場になっていた中学校がありました。明日は